

イマームをめぐるシーア派の諸学派に関する一考察

モジュタバー・ザルヴァーニー

要旨

宗教制度または政治制度としての、あるいはその両方としてのイマーム位およびイマームは、シーア派の信仰の基盤的要素の1つである。小幽隠時代ならびに初期の大幽隠時代には、イマーム位のあり方をめぐって意見が百出した。その結果、シーア派の中に多数の宗派が誕生し、またシーア派教徒の間には信仰を捨てたり、他の宗派に改宗したりする者も現れた。本稿は、クーファ学派、クム学派、バグダッド学派などのシーア派の諸学派を取り上げ、イマーム位をめぐる学派間の論争について検討するとともに、シャイフ・ムフィード、シャイフ・サドウーク、ムハンマド・イブン・アル＝ハサン・イブン・ファッルフ・アル＝サッフアール・アル＝クンミ、クライニーら、シーア派の学者たちの著作ならびにイマーム職のあり方を定義する上で彼らが果たした役割について論じてゆく。

クーファ学派が極端で誇大的イマーム像を掲げているのに対し、クム学派は伝統を重んじ、バランスの良いイマーム観を持つ。一方バグダッド学派の主張には極端な部分と穏当な部分が混在しており、その実態はクーファ学派とクム学派が融合したものであるといえる。

キーワード：幽隠時代、イマーム位、伝統的神学的学派 (Kalâmi)